

(4) 校内での活用方法について

参考資料: 令和2年度埼玉県学力・学習状況調査報告書(埼玉県教育委員会)

【帳票40】を用いて各担任が分析を行った後、その他の帳票も活用して、学年団などのグループで分析を行い、その結果を学校全体で共有し、活用します。分析結果から、効果のあった取組や伸ばしている先生が行っている取組を、数値の裏付けを基に共有し、良い取組を学校全体に広げていくことが大切です。良いものはみんなで共有し、児童生徒に還元していきましょう。

【帳票40】を用いた各担任の分析をもとに・・・

分析

① 学年全体の伸びを把握し、分析する。→【帳票28】

- ・ 学年別、教科別の伸びの様子がグラフで示されています。
- ・ 県の様子と比較して特徴が見られる部分を確認します。

② 学級の伸びを把握し、分析する。→【帳票42(新帳票)】

- ・ 帳票を前年度の学級ごとに並べ替え、「伸びの平均」や「伸びた児童生徒の割合」が計算されています。
- ・ 伸びが見られた学級や教科を確認します。

2年目以降の学校

活用

○ 伸ばした先生が行っている効果的な取組を学校全体で共有する。

- ・ 伸ばした学級や教科の担当者からの聞き取りや、伸ばした教員の授業参観等を行い、効果的な取組を共有します。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る。

- ・ 「学力」「学力の伸び」「学習方略」「非認知能力」「生活習慣」等の関係から、自校の成果や課題を見つけます。

★分析方法や校内での共有の具体的な実践例は、この後の「調査結果活用協力校の取組」や「特徴的な学校の取組」でも紹介していますので参考にしてください。

分析①

【帳票28】を活用した分析

・学年全体の伸びを把握し、分析する

○【帳票28】「各実施主体の調査結果票」から自校の概要を捉える。

→ 「平均学力レベルの状況」や「学力階層別の状況」を分析する。

(1) 平均学力レベルの状況

【分析①】学力の伸び幅の違い

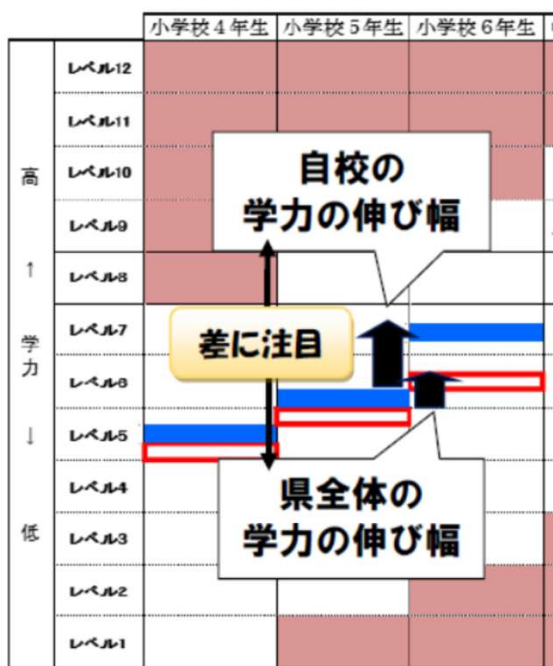
→ 伸び幅が県平均よりも大きい学年や教科を見付ける。

【分析②】学力レベルの違い

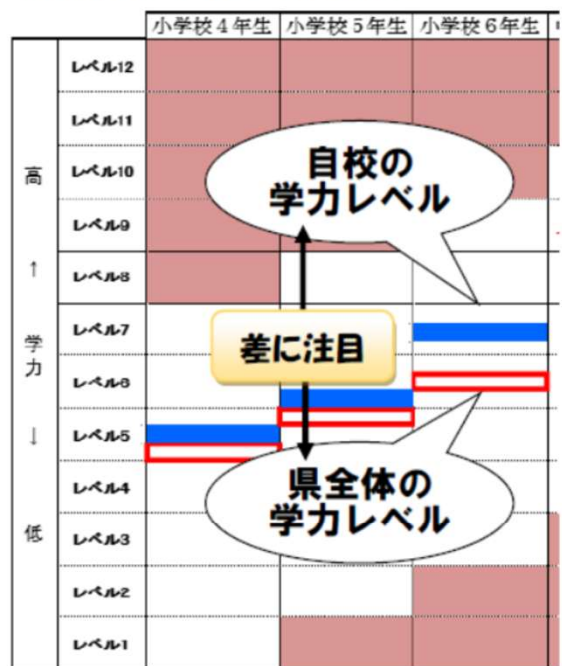
→ 学力が県平均を上回っている学年や教科を見付ける。

→ 学力が他学年の同時期を上回っている学年や教科を見付ける。

【分析①】学力の伸び幅の違い



【分析②】学力レベルの違い



※【帳票27】では、異なる年度の同学年と、学力のレベルを比較することができます。

※【帳票33】では、学力を伸ばした児童生徒の割合や、学年全体の学力の伸びが分かります。

「伸び幅が大きい」、「学力のレベルが高い」といった学年や教科は、効果的な指導や取組を行っている可能性があります！

(2) 学力階層別の伸びの状況

【分析①】 学力層別の伸びの状況

→ 各学年の中で傾きが大きい学力層を見つける。

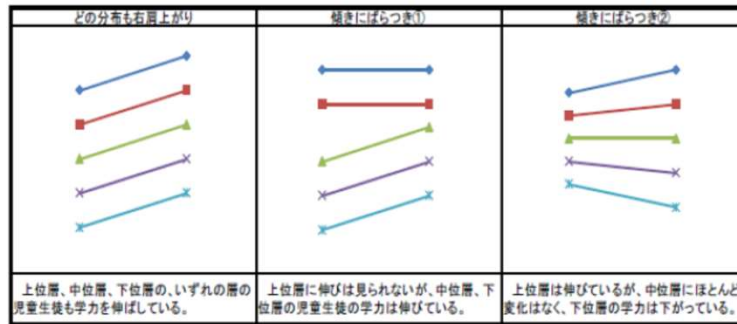
【分析②】 鳥取県のグラフの傾きとの比較

→ 県平均より傾きが大きい学年や教科を見つける。

【分析③】 各学力層の学力レベル

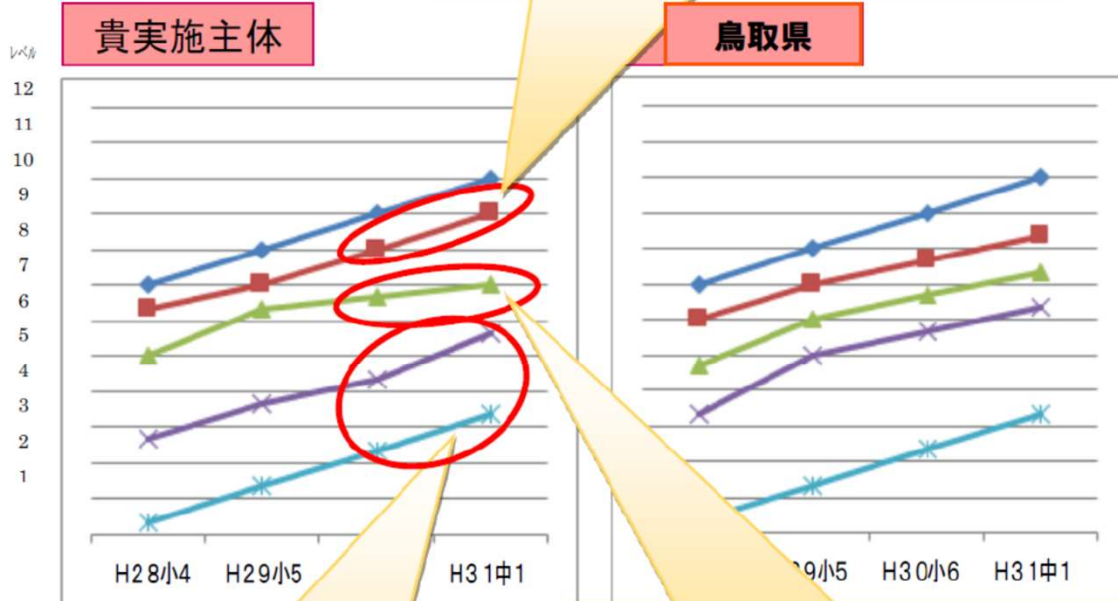
→ 県と比較して、学力レベルが全体的に高い／低い、学力階層によってレベルが高い／低いなどの傾向を見つける。

<グラフの見方>



- ◆ ⇒ 最大値 (最も学力が高い児童生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて 25%にあたる児童生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて 50%にあたる児童生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて 75%にあたる児童生徒が属する学力レベル)
- ★ ⇒ 最小値 (最も学力が低い児童生徒が属する学力レベル)

分析例



学年の中で上位層の学力のレベルが高い
⇒上位層を伸ばす工夫があったのではないか。

下位層のグラフの傾きが
県のグラフの傾きより大きい
⇒下位層への充実した支援が
あったのではないか。

中位層の学力が伸び悩んでいる
⇒前学年でのつまずきがあるのではないか。

※【帳票26】では、各学年・各教科の「学力の伸びの状況」を一覧で見ることができます。

42 学校用

前年度の学級で並べ替え

令和〇年度とつり学力・学習状況調査(旧小学校5年生)

学力分析データ(前年度在籍学年・クラスを前年度に合わせた伸び・学習方略・非認知)

〇〇市立△△小学校

年度	学校名	R△ 学年	R△ 組	R△児童 生徒数	学力を伸ばした 児童生徒の割合 (%)		学力の伸び率 (RO学力レベルとR△学力 レベルの差の平均)		RO学力レベル 平均		R△学力レベル 平均		
					国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
					●●県平均	64.7	81.6	1.5	3.1	19.7	18.3	18.4	15.3
□□	〇〇市立△△小学校	5	1	30		35.7	84.5	-0.6	3.8	19.1	19.3	19.6	15.4
□□	〇〇市立△△小学校	5	2	29		44.2	82.9	0.2	3.6	20.2	18.4	19.0	14.8
□□	〇〇市立△△小学校	5	3	29		83.2	93.4	2.5	4.5	21.7	20.1	19.3	15.6

【例】3組は、ベテランの担任が担当クラスの学力等を順調に伸ばしている
⇒学級経営、教科指導の力を持った教員の熟練の技やノウハウ、経験を共有！

【例】1・2組は、算数の指導で成果を上げている。
⇒担任の教科専門性が高いことが考えられるので、得意な教科指導を高めるよい指導方法を共有！

*【帳票42】は、本年度の児童生徒の調査結果を、前年度の学級に戻して集計した帳票です。本年度の調査結果を前年度の指導の成果として検証することができます。中学1年生の調査結果については、出身小学校の6年生の学級に戻し、小学校にデータを返却しています。これにより、小学6年生の時の学級での指導を検証することができます。また、学習方略や非認知能力等の伸びも検証することができます。

例

年度	学校名	R△ 学年	R△ 組	R△児童 生徒数	R△→RO (変化量)									
					主目的・対話的で深い学びの実施	学習方略			非認知能力					
						柔軟的 方略	プランニング 方略	作業 方略	認知的 方略	努力調整 方略	自制心	自己効力感	動機性	
					0.0	-0.1	0.0	-0.1	-	0.0	0.0	-	-	-0.3
□□	◎◎市立〇〇小学校	4	1	28	0.1	0.2	0.2	0.1	-	0.0	-0.5	-	-	-0.7
□□	◎◎市立〇〇小学校	4	2	26	0.3	0.4	0.4	0.4	-	0.2	0.3	-	-	-1.4
□□	◎◎市立〇〇小学校	4	3	27	-0.1	-0.1	-0.2	-0.1	-	-0.2	0.4	-	-	-0.9

- ・旧小学6年生のデータが返却されている
⇒旧6年生のクラスの実践の振り返りに活用できる
- ・中学1年生の【帳票40】には小学6年生の時のデータが記載されている
⇒小中連携の1つの視点としても活用できる

*【帳票42】は、学校全体で良い取組や効果のあった実践を共有・普及することを目的として活用します。この帳票の取扱いについては、管理職と相談の上、決定してください。

①担当からの聞き取りや授業参観により、良い取組を把握します。

【方法例① 担当からの聞き取り】

帳票40をもとに、主体的・対話的で深い学び、非認知能力、学習方略の数値が高い学級や学年を担当している教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

＜聞き取り例＞

- ・子どもたちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・授業の導入場面での工夫（興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等）
- ・授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）



- ・上記の例を参考にして、より具体的に聞き取ってください。
- ・工夫した取組などにも注目して聞き取ってください。

【方法例② 授業参観】

帳票40をもとに、主体的・対話的で深い学び、非認知能力、学習方略の数値が高い学級や学年を担当している教員の授業を校内で参観する機会を設け、授業で見られた良い取組を把握する。

＜参観の視点の例＞

- ・主体的な学びを実現するための工夫
（めあてや見通しのもたせ方、まとめと振り返りによる学習の定着等）
- ・対話的な学びを実現するための工夫
（互いの考えの比較検討の工夫、教師と子ども・子ども同士の双方向の対話の実現等）
- ・深い学びを実現するための工夫
（問題解決的・探究的な学習の実践、思考を深める発問や板書等）
- ・言語活動の充実（描写、要約、説明、記録、報告等を文章等でまとめる活動等）



- ・授業後の協議が深まるよう、参観の視点を示すなどの工夫をしてください。

②「聞き取りの結果」や「授業参観の感想」等、分析結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換します。

帳票40をもとに、学年（学校）ごと、教員ごとに分析する

〇組は「プランニング方略」の値が高いね。どんな取組をしているのかな？

〇〇先生の△△の指導方法が子どもの力をつけていますね

〇年生の◇◇の取組が良い結果につながっているようです

私もその実践に取り組んでみよう！

全校で取り組んでいる☆☆の取組の効果が表れていますね

指導主事のアドバイスを取り入れてみよう

校内研修の例



【協議例①】帳票40をもとに、数値が低い子どもの状況を把握する

- 〇〇さんは、自己効力感と算数の学習意欲の数値が低いので、そこを高めれば算数の学力レベルが向上する可能性がある

【協議例②】帳票40をもとに、学級（学年や学校）の傾向を把握する

- 〇年〇組は「主体的・対話的で深い学びの実施」の数値が高い。これは、◇◇の取組が結果につながっているのではないか
- △年は2クラスともプランニング方略の数値が高い。これは、☆☆の取組の効果が表れているのではないか

③仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行います。

- ◇協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- ◇取組を実践し、効果について検証を行います。

◆学年（学校）、教員独自の仮説を設定し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説>（協議・意見交換により設定）

（例）「授業で自分の考えを理由づけて発表したり、書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子どもたちが増える。」

<重点項目>（本校の実態及び協議・意見交換から設定）

（例）①学力レベルが低い子どもへのきめ細かな指導を行う

②授業規律を大切にする

※上記①②は全教員で重点化し、取組を徹底する

1 担当からの聞き取りや授業参観により、良い取組を把握します

【方法例① 担当からの聞き取り】

- 前年度、伸びている学年、教科を担当した教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

＜聞き取り例＞

- ・子どもたちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・授業の導入場面での工夫（興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等）
- ・授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）



- ・上記の例を参考にして、より具体的に聞き取ってください。
- ・工夫した取組などにも注目して聞き取ってください。

【方法例② 授業参観】

- 前年度、学力等を伸ばした教員の授業を校内で参観する機会を設け、授業で見られたよい取組を把握する。

＜参観の視点の例＞

- ・主体的な学びを実現するための工夫
（めあてや見通しのもたせ方、まとめと振り返りによる学習の定着等）
- ・対話的な学びを実現するための工夫
（互いの考えの比較検討の工夫、教師と子ども・子ども同士の双方向の対話の実現等）
- ・深い学びを実現するための工夫
（問題解決的・探究的な学習の実践、思考を深める発問や板書等）
- ・言語活動の充実（描写、要約、説明、記録、報告等を文章等でまとめる活動等）



- ・授業後の協議が深まるよう、参観の視点を示すなどの工夫をしてください。

2 「聞き取りの結果」や「授業参観の感想」等、分析結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換します



校内研修例

協議例1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。
(例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例2 学年(学校)として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年(学校)に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

3 仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行います。

- 協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- 取組を実践し、効果について検証を行います。

● 学年(学校)、教員独自の仮説を設定し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説> (協議・意見交換により設定)

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増える。」

<重点項目> (本校の実態及び協議・意見交換から設定)

- 例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。
② 授業規律を大切にする。
※ 上記①②は全教員で重点化して取り組む。

**活用例① 「質問紙調査」と「学力の伸び」を視点とした分析
——「どのような児童生徒が学力を伸ばしているのか？」——**

手順1 「①クロス集計（「学力の伸び」の階層と児童生徒質問紙の項目）」のシートを開く。

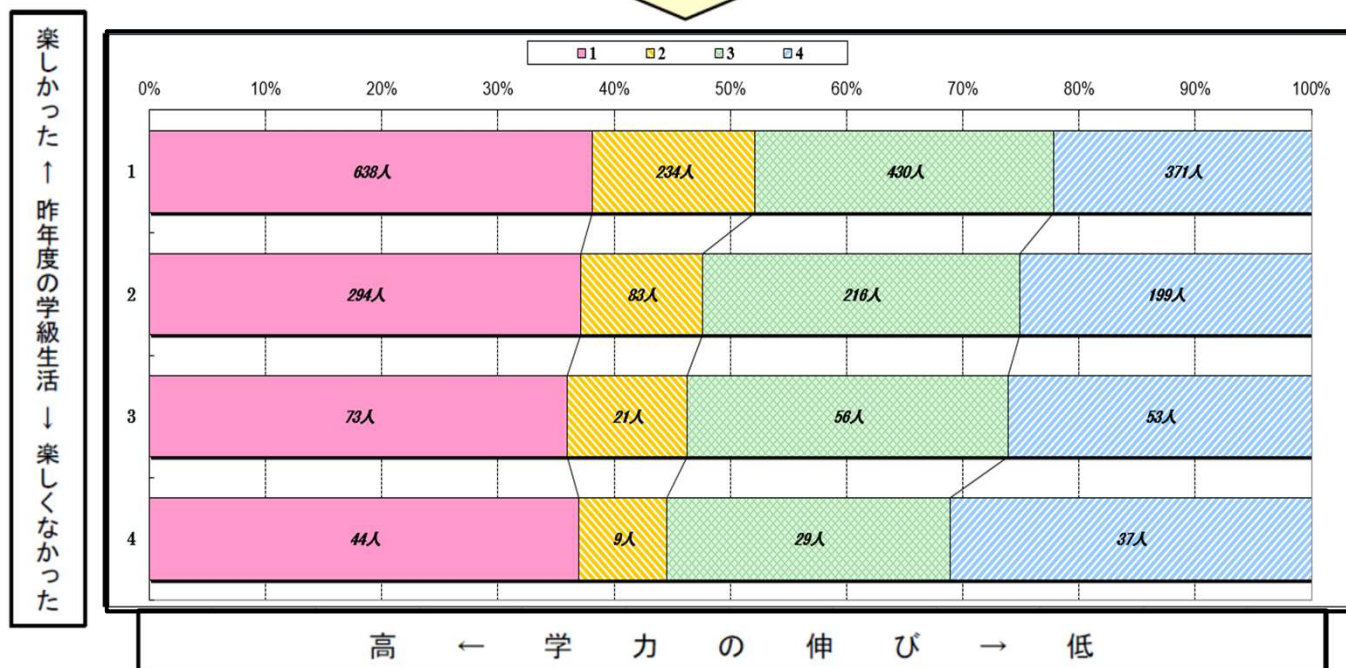
手順2 縦軸カテゴリで質問紙調査の項目を選ぶ。

横軸カテゴリは学力の伸び、教科を選ぶ。

縦軸カテゴリ⇒ 質問《（小5）学級での生活は楽しかったですか》

横軸カテゴリ⇒ 学力の伸びの階層_算数

フルダウンで選択するだけでクロス集計の帯グラフが出来ます！



上の帯グラフは、「(前年度の)学級での生活は楽しかったですか」と「算数の学力の伸び」のクロス集計です。

※「分析支援プログラム」は、結果帳票のCD-ROMにデータで入っています。

※詳細な操作については、「活用マニュアル」を参照してください。活用マニュアルも、結果帳票のCD-ROMに「小(中)学校用_分析支援プログラム活用マニュアル」というファイル名で入っています。

活用例②

「他項目との関連の強さ」を視点とした分析

——「学校として何に取り組むのが有効か？」——

とっとり学力・学習状況調査分析支援プログラム<小学校6年生 関連探索>

探索項目⇒ 算数【領域等】《量と測定》成績階層

フルダウンで選択するだけで相関係数のリストが出ます！

手順1 「④関連探索」のシートを開く。

手順2 探索項目を選ぶ。

探索項目(相関係数が高い順に表示)		相関係数
算数【観点】《数量や図形についての技能》成績階層	やや強く関連	0.781
算数【観点】《数学的な考え方》成績階層	やや強く関連	0.755
算数【観点】《数量や図形についての知識・理解》成績階層	やや強く関連	0.750
算数【領域等】《数と計算》成績階層	やや弱く関連	0.673
算数【領域等】《図形》成績階層	やや弱く関連	0.626
算数【領域等】《数量関係》成績階層	やや弱く関連	0.604
国語【領域等】《読むこと》成績階層	やや弱く関連	0.531
国語【観点】《読む能力》成績階層	やや弱く関連	0.531
国語【領域等】《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》成績階層	やや弱く関連	0.530
国語【観点】《言語についての知識・理解・技能》成績階層	やや弱く関連	0.530
国語【領域等】《話すこと・聞くこと・書くこと》成績階層		0.424
国語【観点】《書く能力》成績階層		0.383
国語【観点】《話す・聞く能力》成績階層		0.293
国語【領域等】《ことばの活用と表現》成績階層		0.286

- ・相関係数が0.8以上のときは **強く関連**
- ・相関係数が0.7以上のときは **やや強く関連**
- ・相関係数が0.5以上のときは **やや弱く関連** と表示が出ます。
- ・相関係数が0未満のときは 相関係数の値が **赤字** で表記されます。

上の例は、探索項目に「算数【領域等】《量と測定》成績階層」を選択したものです。多くの項目と相関関係が出ています。